

G-46 コメディカル向け院内呼吸療法ニュース：“ICU Risk Management News”の効果

防衛医科大学校病院 集中治療部

○零石正明、尾崎孝平、荒牧良彦、梅田英一郎、佐藤哲雄

【はじめに】

当院 ICU は、1997 年 4 月より一部 ICU スタッフによる管理が始まったが、当初、病棟のみならず ICU においても全身管理上の問題点が散見された。また、必要な物品の必要性が認識されず、物品請求にも支障をきたしていた。特にシステム上のエラーがエラーとして認識されていないという危険な状況もあり、昨年 7 月より、この様なエラーを防止するとともに、ICU サービスを充実する目的で、“ICU Risk Management News”を発行している。そこで今回このような活動の影響と効果について報告する。

【ICU Risk Management News について】

対象は主に看護婦、ME、研修医とし、臨床現場から院内全体へ効果が波及することを期待している。作成・編集・配布は ICU 医師 4 名が担当し、週 1 回金曜日に発行している。配布箇所は病棟を含めた看護系、臨床系・基礎系各医局、その他検査部、薬剤部などとなっている。

テーマは、98 年 7 月～12 月の間、vol.1 として呼吸管理を、99 年 1 月～4 月の間、vol.2 として感染症・抗生剤をとりあげた。そのなかで毎週小テーマを 1 題決め、問題点や解決策などを検討し、次にあげるコンセプトを元に発行している。

- ① 昼食のテーブル等、比較的短時間で一気に読みきれ、
- ② 新人看護婦が理解できるような内容、用語を用い、
- ③ A4 の 1 ページで、より理解しやすいような図表をいれ、
- ④ できるだけ身近に起きる危険な事象が中心
- ⑤ 犯人探しおよび意図的な誘導を行わない。

9 【結果】

発行部数は現在毎週 75 部を定数として各部所に配布しており、それ以外に希望者にもその都度配布している。vol.1、vol.2 ともに現在終了しているが、希望者にはバックナンバーの総集編を適宜配布しており、vol.1 は現在までに約 120 部を配布し、未だ増加している。

他の部所への波及効果としては、

- 1. 我々に触発され、材料部が“材料部ニュース”を発行した
- 2. ニュースで紹介した必要物品の購入が円滑になった
- 3. 特にあまり関わりの無かった部門の我々へのコンサルト回数が増加した
- 4. リザーバーの付いていなかった院内のアンビュバッグがリザーバー付に変更された
- 5. 第 3 世代セフェム系抗生物質使用量が激減した

その他、スタッフの編集能力の向上、特にコンピューターの扱いに慣れるなどの利点があった。一方、締め切り時間に追われるなど、業務が拡大する欠点があるほか、読者の要求・意見が集まりにくいなどの問題点が挙げられる。

【考察】

上記結果が示すとおり、我々のニュースをきっかけとして、それまで危険であると認識されてなかったようなエラーが、エラーとして問題視されるようになってきており、その重要性が次第に院内に広まってきている。しかし、ICU と関わりの少ない部所においては、このニュースの存在を知らない職員もおり、更なる啓発活動が必要であると考える。

ICU と密接にかかわっている部所では、ICU 入室時はもちろん、退出後や場合によっては病棟の患者についてコンサルトがあり、その都度啓発活動も行っており、事故防止に努めている。

今回の結果をもとに我々も触発され、ICU 的な考えを発展させ、院内のシステムから改善していきけるような結果を導き出せるよう、今後も努力していきたい。

【結語】“ICU Risk Management News”の影響は院内に次第に波及していると考えられた。